

## 突哨山運営協議会 2018年度 第2回協議会 議事録

2018年9月13日(木) 18:30～ 旭川市職員会館

出席者 出羽寛 黒川博義 塩田惇 舟橋健 桐一郎 尾崎良司

澤田勇 佐藤仁親

旭川市土木部公園みどり課 矢萩正朋

近文第二小学校 五十嵐徹教頭

以上 個人8名 団体2名

事務局 山本牧 中村直人 富岡雅志

### 1. 報告事項

---

#### ①作業報告(主催・共催)

※主催等の表記のないのは「運営協議会」が実施

7月31日 突哨山駐車場草刈り(もりねっと)

#### ②主な活動写真



7月31日 突哨山駐車場草刈り

#### ③ヒグマの状況について

別紙参照

#### ④遊歩道の現況について

巡回調査結果（スライド）

## 2. 協議事項

---

#### ①現地検討会の実施について

ヒグマ調査の現場（カメラ設置場所や調査方法）

遊歩道の状況（草刈りを実施していない場合の笹や雑草など）

観察路の状況（整備の進捗具合など）

出羽 今年は閉鎖を継続するという方向にあるのか。

山本 閉鎖を継続するか解除するかは協議会で意見を出し最終的には市が判断する。クマの痕跡が途絶えてから1ヶ月経過しているので閉鎖を解除する議論が出てもおかしくはない状況にある。

出羽 雪が降った後の足跡調査をするまでは閉鎖を継続し、痕跡がなければ来春部分的に閉鎖を解除するという事で、今の所は閉鎖解除の判断は困難かと思われます。堆肥場の一斗缶が食べ尽くされたというのはどういうことか。

山本 液体のようなものが入った一斗缶が積まれたものが次々と崩されている。中身を食べているかどうかまでは不明だが、クマがこれを食べ物としていることは間違いない。

澤田 一斗缶の中身はビニールに包まれている。それを引っ張り出してそこら中にばらまいている。中身は米ぬかのような漬物のような感じ。

出羽 旭川市、比布町、もりねっとでどのぐらいの頻度で巡回しているのか。

山本 旭川側はカタクリルート2台、扇の沢1台のカメラを旭川市環境部ともりねっとが1週間交代で巡回してチェックしている。

澤田 比布町はびびの路、跨道橋、堆肥場、かぼちゃを荒らされた場所の4箇所カメラを設置しており、だいたい1週間ごとに役場職員と私とで巡回している。アリの食痕は7月16日、8月6日。8月21日は林の入り口の丸太をひっくり返していた。

出羽 協議会で現地視察を行ってはどうか。

黒川 質問です。8月4日に中型のクマが写っていたカメラはどこに設置されていたのか。

山本 カタクリルート「3番」の手前です。

黒川 男山公園のフンはどの辺りで見つかったのか。

山本 ゲートから200mほど上がって売店と駐車場への分かれ道あたり。

黒川 知らせを聞いた後確認に行ったが雨で流れたのか分からなかった。

- 山本 今も痕跡は残ってはいる。
- 澤田 びびの路入り口に設置したカメラに三人の人影が写っていた。キノコ採りと思われる。
- 黒川 跨道橋に設置したカメラにクマが写っていたのは7月31日が最後だが、8月8日に男山公園でフンが発見されているのはどう考えたら良いか。
- 山本 可能性は2つある。クマが他のルートを通っていることも考えられる。農業用水路があるが、ここはノーマーク。またカメラのセンサーのタイムラグにより感知しても写っていないこともありえるし、写っているが真っ暗ということもある。
- 黒川 別ルートで出入りしているということか。
- 山本 私はむしろカメラで捉えきれていない可能性が高いと思う。この時期は跨道橋のカメラが1台だけだったが、捉えきれていない様子だったので後に2台体制にした。
- 塩田 キトウシ山の危険度はどの程度か。
- 山本 キトウシ山の方が突哨山よりは熊のいる可能性は高い。ただし入山者の心構えが突哨山とキトウシ山では違う。突哨山は公園という認識で入山する人が多いので低いリスクでも閉鎖しなければならない。キトウシ山は今年が特にリスクが高いわけではない。一般的なクマに対する注意ができていればクマに出くわすような危険性は低いと思われる。
- 桐 フンからDNAなどでクマを特定することは可能か。
- 山本 フンの表面に付いた腸の粘膜からDNAを採取することは可能だが、フンをしてから半日以内でなければならない。日本ではあまり精度が高くない。一番確実なのはコールターを塗った杭を設置し、それにクマが背中を擦り付け、杭に付いた毛の毛根からDNAを採取する方法。
- 出羽 コストはだいたいくかるのか。
- 山本 数千円程度。札幌の藻岩山ではその方法で個体識別をし、親子関係までわかっている。札幌市が調査を実施している。
- 舟橋 協議会として市へ意見を出した方がいいのではないか。
- 出羽 雪の上で足跡調査をして判断をするか、もしくはクマの痕跡が相当期間ないのであれば部分的に閉鎖を解除するか、という話はしているが、協議会の総意として市へ提出しているわけではない。
- 舟橋 であれば、協議会として意見をまとめた方がいいのではないか。私はカメラで調査するばかりでなく積極的に捕獲し別な場所で放逐するなどの方がいいと思う。そうしなければクマに居座られた場合ずっとオープンできなくなってしまう。旅行会社なども損失を被る可能性がある。来

春オープンできないなら市のホームページなどで広報すべきではないか。ここだけの話にはならない。全国から観光客が来る。

出羽 はっきりした結論を出すことにはならないかもしれないが、方向性を出しましょう。ある程度状況が分かって来ている。雪の上で足跡調査をするまで今年は基本的に入山禁止にする。もしくは状況を見て部分的に解放するか。その二つの方向性を確認するというところでよろしいか。

五十嵐 方向性という話ではないが、近文第二小学校では年に3回44名の児童が3つのグループに分かれて突哨山活動をしている。今年は閉鎖されているため突哨山に行っていない。いつ行けるのか、となった時に一番安心できるのはクマが捕獲されたなどの時。そうなればある程度安心できるので突哨山での活動は再開できる。捕獲できていない状況で閉鎖が解除された場合、安全というイメージは持つが、そういった状況で子供達を突哨山に連れて行くのは不安だ。万が一、預かっている44名のお子さんに何かあったら責任を取らなければならない。市に責任を押し付けるわけではないが、閉鎖が解除されたということはそういう意味合いがあると捉える。

佐藤 私は藻岩山の山岳同好会に入っている。藻岩山は原生林があり国立公園として守られている。登山口にクマがいるので注意してくださいとか、クマが出ましたと書かれている。この辺りであれば嵐山の入り口でクマが出ました等と書かれている。あれはあくまでも公園ではなくて山を登るというスタンスのエリアですし、登る人は自己責任という部分があり、当然クマに対して準備をしていく。しかし突哨山は公園であり、クマがいる場所に行くというスタンスではない人が行く場所。突哨山は熊出没注意で済む場所ではない。駆除がいいかどうかは別。クマに対する認識、知識、用意がない方が行く。そういう場所でオープンしていいのか、もしくは限定でオープンするのか。そういうことを決めた方がいいのではないか。実際に現地調査をして危険箇所を確認し部分的に解放することもありうる。突哨山は山ではないということ。

出羽 もともとクマがいるところとは違うということですね。

山本 先ほど塩田さんがおっしゃったキトウシ山はどうかということはまさにその部分。これがもし旭岳の登山道なら閉鎖する必要はない。突哨山のクマはそれほど危険な状態ではない。リスクは危険度と人間の注意力のバランスで考えなければならない。キトウシ山は突哨山よりもクマの危険度は高いが、ちゃんとしたリーダーがいて観察会を行うのであればリスクはクリアできる。突哨山はクマの危険度は低い、来る人にそういったことを期待できない。リーダーはいない、心構えもない、犬を連れ



て入ってクマを呼び寄せられるかもしれない。共通認識として突哨山はいわゆる山や登山道とは違う公園。したがって市環境部と公園みどり課とのクマに対するリスク判断が違うのは当然だと思う。8月上旬でクマの痕跡が消え、秋の行動を考えるとクマはいなくなっただけかもしれない。でも残っているかもしれないという曖昧な状況。来春に向け部分解放を考えると、クマの状況をきちんと知りたいので初冬と早春の調査をきちんとやる。カメラ調査に比べ雪上での足跡調査はクマの状況がかなり分かる。その上で来春は全面オープンできるか、または南側だけ監視員をつけ部分的にオープンするか。常時人がいればコースの安全は保て、クマに警戒してくださいと言わなくてもいい状況が作れるだろう。

出羽 現状、小学校では突哨山に入り辛いですね。

五十嵐 正直入り辛いですね。

山本 ご相談を受けましたが、今月も突哨山活動を予定している。結局違う場所で実施することにしたが、我々が付いていけば15名ほどの突哨山活動は安全にできると思っている。しかし学校にそこまでのリスクは負わせられないし、あえて閉鎖されている場所に子供達を連れて行くということまではしなくていいという結論となった。

出羽 一般の人の問題もあるので、そこは難しい。

山本 ただ、協議会メンバーが現地検討会で入山するのは違う問題。このメンバーが危険にさらされるとは思っていない。ぜひ見ていただきたい。

出羽 これは私の意見だが、今年は入山禁止を続け、雪上でクマの痕跡を確認する。また来春には一番通りやすい跨道橋をカメラで確認するなどしてできるだけ早めに情報を出すという方法しかないのではないかと。男山公園が来春どうするかという問題もある。そのために現地検討会が必要なのではないか。市に対して先程の2つの方向性は口頭で伝えてあるのか。

山本 協議会としてそういう話をさせていただくということになっている。今回のクマの報告書もそういう形になっている。来春に関してはちゃんと調査をすればオープンすることができるかもしれない。

出羽 今年は入山禁止を通すということでもいいか。

山本 それは別な話だと思っている。一般的に北海道のやり方は目撃と捕獲に頼っている。それは非科学的なやり方だ。今回クマは2頭いる。2頭のうち1頭獲ったから安心ということはない。

出羽 ただ、今の話は小学校が突哨山学習で入ること、一般の人の関係でも入山は無理だ。部分的に解放するとなるとその基準はどう判断するのか。

山本 私が言っているのは来春の木もれびの路付近の話。

- 出羽 ということは今年は来春まで入山禁止にするということか。
- 山本 それは別な話で皆さんで協議していただきたい。
- 尾崎 私も学校にいたが、クマが出たら学校としては連れていけない。校長は教育委員会に相談する。クマがいる今の状況で行事は難しいと判断する。佐藤さんの意見のように突哨山は山ではなく公園。公園をオープンするかどうかは公園みどり課の判断となる。協議会は資料としては提出し、結論は協議会ではなく公園みどり課がすべき。クマがいるので入らないでくださいとか、行事はやらないでくださいとはっきり判断してもらうしかないのではないか。
- 出羽 ここではそういった方向性を検討し、最終判断は市が行うことになっている。
- 山本 協議会の中で色々な意見を出して、それを含めて公園みどり課として最終判断をする。実は公園みどり課から突哨山協議会で方向性を出して欲しいとおっしゃったが、合意が取れば方向性ぐらいならともかくとして、協議会の性格から少なくとも結論と最終判断と責任は公園みどり課で下してくださいと伝えた。ただし参考となる意見はきっと皆さんがそれぞれのポジションでいろんなことを言ってくれると思うと伝えた。
- 尾崎 それともう一つ、クマに関する判断は別の課が行なっている。
- 山本 環境部環境保全課です。
- 尾崎 私たちが現地に入ってカメラを見る、ここまでいいとか悪いとか判断するのは環境部の仕事ではないか。我々は判断できないのではないか。
- 出羽 結論を出すのではなく方向性などの情報を提供するという事です。あくまでもここでは結論を出すことではない。あとは環境部と公園みどり課で話し合ってもらうことだ。
- 山本 どちらの部署とも協力している。調査は環境部環境保全課と実施している。突哨山の管理は土木部公園みどり課。この会は土木部の所管だが、クマの情報は全部共有しており、私のメールは環境保全課と公園みどり課へ同時に行くようになっている。この資料ものちほど環境保全課へ提供する。環境部は旭川全体のクマの生態と安全も含め、農業被害も農政部ではなく環境部で扱っている。道庁のフローチャートに準拠しているのは正に環境部の仕事。就実の丘に出たクマやペーパンの奥に出たクマも全部扱っていて、その一つとして旭川の突哨山区域にもクマがいるので調査をしている。カメラを仕掛けて私たちと一緒に合同で行ったり現地を調査するのは土木部ではなく環境部の仕事。私と入れ替わりで毎週行っているのは先程名前が出た環境部の橋口さんと石田さんがペアで歩いている。ただ公園として開けるかどうかの判断は土木部公園みどり

課。これがキトウシ山ならそんなに入山規制はかからない。現にかかっていない。だがここは都市緑地という一般の方々が無防備で入る場所。環境部としてはこのクマが一般的に言えば問題クマではないと言い切っているが、一般の人がそこでクマに出くわしたらなにがしか起きてしまうかもしれない。公園として、より高い安全性が求められる。土木部公園みどり課の判断として今は閉めているという理解でいいと思う。旭川市内の一般的なクマという位置付けと、ここが都市緑地でみんなが無防備で歩いている、その区別は先程ちょうどおっしゃっていたように旭岳の登山道とは違うということ。

舟橋 その観点から私は排除することを考えてほしいという意見を言っている。公園の中だから特に言っている。結局被害はある。市民がそこに入れないことが被害だ。今までどうして開かないのと何回も聞かれている。

出羽 ただし突哨山は公園といっても都市林的な公園。いわゆる造成した公園とは違う。

舟橋 しかし国立公園とは違うのではないか。

佐藤 無防備な人が誰でも入れる場所でのクマとの接触はヒューマンエラー。パニックになったり騒いだりすることによってかえってクマをおびき寄せてしまったり、人間がたくさん入るのでゴミや匂いなどを置いてきてしまってクマが居座ってしまったりといったことでのヒューマンエラー。そういったことが起きやすい場所であれば、公園なので、私は動物が好きなので殺したくはないが排除ということになってしまうのかもしれない。知床の国立公園は人間が行って車で餌をやったりしているが、被害があれば駆除される。そうならないように防ぐ部分というのは行政、行政は政策を行う部署ですので、そこを明確にしていれば一般市民も困らない。ダメならダメと言ってもいいと思う。ここだけダメとか。

舟橋 今のままではダラダラ行く可能性がある。対策の仕方があると思う。クマが外に出にくい状態を、極端に言ったらほったらかしておいている。

出羽 ほったらかしているわけではない。

舟橋 カメラで見て観察しているのは分かる。最終的にいつまでも（クマが公園の外に）出なかったらほったらかしていることになる。

出羽 今回の非常に重要なところは、札幌は先ほど言ったように、資金もかけて市としてやって、DNA 鑑定もやって、あれだけの体制も作っているけれども、ああいうところは滅多にない。ところが今回はもりねっとが色々カメラを使ったり、市町村も一緒にやって、そういう情報を集めて

きているというのは非常に大事なこと。これからの参考になる。それに基づいて来年度どうするかということも判断しやすくなってきている。実際現地検討会をやってみませんか。全員は無理でしょうけども。

舟橋 みなさんの意見を聞いてみてほしい。市民の意見として言ってほしい。捕まる捕まらないは別にして公園みどり課が環境部に依頼してワナをかけるなどできるのではないか。

尾崎 現地調査の目的がはっきりすればやってもいいと思う。ここに関わっているのは先ほど言ったように環境部と公園みどり課。それがどんな動きをされているのか分からないので、舟橋さんがおっしゃったように、現地調査は環境部。いろいろなところにクマが出て忙しいようだが、協議会が働きかけるのは環境部で現地調査についても環境部でやる。我々がどこまで入っていいか。もし現地調査をするのであれば会員の皆さまがどう思っているのか。我々がやるべきところなのか。それともやってはいけない事なのか。そこは出羽さんが判断されてやらないと。

出羽 突哨山運営協議会というのは突哨山に関わる諸々のことを扱う。ただその権限がどこまであるかということ、最終判断は公園みどり課だったり色々ある。ここで判断できることと、情報を集めて研究をして判断してもらうこととある。その一つとして、私も一番最初の調査の時に行きましたが、我々自身が現地調査をするということは私は悪くないと思う。必要だと思う。

山本 調査という言葉だが、私は調査は期待していない。資料では現地検討会となっている。こういう場所にクマがいたんだとか、こういう場所にカメラを仕掛けているのかとか、ここにフンがまだ残ってる、というふうに周りを見ていただくところで話をしている以上に実感を持てるし、開けるかどうかに関しても意見を出しやすくなる。調査は指定管理者と環境部で責任を持ってやっている。園路にクワで土をならして足跡がつくようにした場所を何箇所も作っている。そういうところで動きを押さえられないか、色々やっている。調査は毎週やっている。それをやってくれという訳ではない。そういうことも含めて、私はむしろクマの調査ではなく、人が入っていないので草刈りもしておらず、笹がかぶっている。スタッフの間では今刈らないと来春の花を見るのに不都合だ。正直、草刈りをさせてほしい。クマがいるかもしれない、閉山している中で、いくら作業とはいえ入っていいかどうかというのもみなさんに見ていただいて、こういったデータも含めて、自分たちで安全を確保して入るならいいとか、あるいは危ないからやめたほうがいいのか、そういった判断をしていただきたい。つまり一般公開するかどうかは公園みどり



課が判断する。ただ管理上いろいろあるので、見ていただいて、現地を知っているからこそ写真や地図で分かる。

舟橋 我々会は中に入って作業していいかという判断はできない。それは市役所の指示で決めてもらわないと。

山本 決めてくれではなく、意見は出してくれるだろうと期待している。

尾崎 植物や木は運営協議会に任されているが、クマとなると別の問題。我々協議会が突哨山を預かっているから、どこにも関係なく入っていいかということを考えなければならない。もう一つは環境部や公園みどり課に、こういうことをしたいんだけども入っていいかという許可が必要なのか、不要なのか。そういう順番を経てやらないと。我々は特権で今までのようなカタクリの観察会とは少し違う。この辺をきちっとやらないと。舟橋さんが言ったように我々がここで決まりました、はい行きまず、というふうには、もう少し考えないと。冷静に関連を考えて判断していかないと間違った方向になってしまう。

出羽 その辺の判断はもりねっとでできないのか。

山本 事務レベルで公園みどり課請川さんと話している。一般の人が特別に観察ツアーを許可するとういことではなく、運営協議会でこれまで関わっている人たちが現地を見る、調査ではなく現地検討会に入るということを提案しようと思っているがどうかと聞いて、それはOKをとってある。環境部は少なくともそれに関してイエスノー言える立場ではないので特に聞いていないが、当然それは公園みどり課が所管していて、いろんな意見を出していただいている協議会のみなさんが入るということに関しては、私は事前には一応そういうことを提案しようと思っているが、いいか、いいです、というふうなことは事務レベルでは整理した上で提案をしている。

尾崎 行く目的が、先ほどの説明では、どこまで入れるかというのは取り消しか。現地をとにかく見るというために入るということか。

山本 その結果意見は出てもいいが、判断は預けられることはない。

尾崎 それは今会員の皆さんに聞いて、いいとなったら公園みどり課に許可を得るということか。

山本 事前に聞いてあるので、日にちや人数が決まれば当然お知らせもするし、むしろ同行してほしい。

尾崎 それは課長に確認したのか。

山本 いいえ。担当の請川さんと話をした。

尾崎 そこをきちっとやらないと、あとでややこしくなる。

山本 少なくとも今までのやり取りの中で、ここまできて何日に行こうという

調整をした時に、公園みどり課がやめてくれということはないという見通しぐらいは。許可申請は出してはいないが、日にちまで決めたのにやっぱりやめてくれということはないだろうぐらいの事前折衝はしてある。

公園みどり課矢萩 あくまでも管理者という立場のものが行くのであって、（クマに対する）心構えや用意もできているので（山に）入って行くのは大丈夫という考えではある。

山本 我々も当然スプレーなどの防護策をした上で行きます。

尾崎 もりねっとという市から委託された管理者はいいが、運営協議会はもっと広いメンバーです。このメンバーも入ってもいいという判断をされているのか。今ここで入ろうとしているのは運営協議会の組織として入るとのこと。もりねっとは管理者として市からお金をもらって管理しているので当然許可は出る。今は運営協議会として入ろうとしている。

山本 私は、少なくとも請川さんには伝えている。（資料に）現地検討会の提案と書いてあるが、提案をしているということは少なくとも事前にこういう提案をしますと言い、拒否はしないという、もちろん決まり方や正式の申請じゃないから絶対に許可を得ていますという言い方はしませんが、事前折衝のレベルでみなさんと一緒に現地検討会をして見ていただいた方がいいと思っているので提案してもいいかと聞いて、いい、ということとは話はしてある。いわゆる下ごしらえとしては通っている。

出羽 運営協議会は行政、旭川市と比布町、それと指定管理者と市民、その三者の協議で今まで進んできた。全くの一般市民ではない。そこはお互いに情報交換しながら、我々も現地視察をして意見を出すぐらいのことはあってしかるべきだと思う。

澤田 現地検討会の検討事項が3点書いてあるが、その中で行うということだろうと思うが、ヒグマの調査の経過、遊歩道の状況、観察路の状況。私はびびの路について言っていると、草刈りを4回ぐらいした。その中でクマのアリ食痕を見つけた。よくよく考えるとすぐそばに（クマが）いた。私の音でクマが逃げて行って目撃された。私がやっている間に目撃情報があった。そういう状況の中でカメラは（道の）奥にあった。その後（アリ食痕が）2回目ひっくり返されたので担当者がそこにカメラを設置したいと、（食痕の場所にカメラを）持ってきた。（遊歩道に）入ってから50mもないところに設置したので、（担当者が）一人でも行けるかなと言っていたが、一人で行かせるのはダメだと伝えた。私がやってた時クマはすぐそばにいたから。クマの入った道もある。そういう状況というのでも踏まえていただきたい。遊歩道は入っていなかったら刈っ

ていないので草でひどい。比布の方は外来植物がどんどん入ってきている。3年ぐらい駆除してやっとおさまってたが、もうすごい。だからこんな状況だということは見て欲しい。遊歩道は草刈りをしないとこんな状況になるということ。来年どうなるかと心配している。そんなこともあるので、見てどうしようかと。開かないにしても、これを放置しておけば、せっかく何年もかかって作り上げてきた遊歩道が荒地に戻るという心配はしている。

出羽 他に意見ありますか。

桐 見通しですけれども、今は判断できる段階ではないと思うが、雪上で熊の足跡を調査することでわかると思いますが、そこで（足跡がなかったら）間違いなくクマはいないと判断するのか、その時点で高速道路の跨道橋を遮断するのか。そこをはっきりすれば、もうクマは来ないと判断できれば、春のカタクリの時期にオープンするいい材料になると思う。もう一点、役場にクマの状況を聞いたら、クマはまだいます、と言う。確かにいるかもしれないが、協議会でも何度も話をしているが、一つも進展がないというのも。自信を持って我々だけでもクマの今の状況はこうだからとはっきり言えなければ。いつまでもダラダラしている。クマをどうするんだと言われた時に答えられなければダメだと思う。

山本 ダラダラという言葉が出ているが、私はダラダラしているとは思っていない。今回、ヒグマは季節に応じて食べるものと場所を変えて動いていく。特に冬眠に備えて動く。人間は一週間や一ヶ月と言う単位で考えるが、クマは一年のシーズンで考える生き物。冬眠という一番命がかかるものに対して、一番厳しい時をどう過ごすかを必死で考えて生きている動物なので、秋の行動は変わってくるし、冬眠の前後の、北海道は幸い雪があるので、初冬と早春の調査をやれば、これは今と比べ物にならないぐらい、ほとんど100%、こんな狭い細長い地域ですから、よそから入ってこないで、100%いる、いないは断言できる。春に関しては自信を持って閉める開けるということは、いるから閉める、たぶん、ここはたぶんがつくんでしょうけれども、まず9分9厘いないので大丈夫、と言うことは初冬と早春の調査をきちんとやればできます。それを私は短期的、中期的というふうに、短期的に今どうだという、この秋に関してはたぶん（クマが）抜けていると思うけれども良くわかりません、というもやもやしたものがあるのは、これはしょうがないことかなと思う。ただ春に関しては言える。それは何もしないでダラダラというのではなく、それはクマが一年を通じて生きてる、5月から入ってきて来年の3月4月までの話なので。この藪の中でプロのハンターだってクマ

を撃つことは不可能。そういう中では夏場に仕事をする時にはハンターもそうおっしゃるだろうし。そういう意味では季節というものを考えていただいて、我々からすると何ヶ月もというが、クマは一年単位で四季を通じて動いているので、四季の中で考えていただきたい。そのためのデータを作っているということをご理解していただきたい。ダラダラと言われるが、正直雪が降らないと分からない。逆にいうと雪が降れば分かります。やるべき時にやるべきことをちゃんとやる。それは我々が山の中を歩かなければならないが、やることをやればこの狭い範囲なら判断できる。先ほど出羽さんに秋に関しては別問題ですと言ったのは、言い方を変えると春に関しては自信を持って、います、いません、開けられます、開けないほうがいいです、ということと言える。秋に関しては今の状況でもやもやとしていて、たぶん状況からすると出て行っているみたいですが、いるかも知れないというのが今のところなので、その判断は舟橋さんがおっしゃったようにいつまでもやっていないで開けたほうがいいのかという判断もあるかも知れないし、分からないから閉めておこう、春まで待とうとなるかも知れない。それはみなさんそれぞれ、これは私でも判断できない。決めろと言われればなんとか決めるが。

舟橋 私の意見として配慮してほしいという話。クマのことは私自身もガイドをしていて、ある程度勉強して分かっている中で言っている。突哨山という公園という中だから言っている。ダラダラと待たせてまた来年も同じような状態になるのではないか。

出羽 それはないと思う。積雪期間を通して相当はつきり判断できる。

山本 それでいるとなったらまさに結果的にそうなるかも知れない。それをダラダラというかは別。私はダラダラとは思わない。季節季節で判断をして、来年もし春に調査をして足跡があったら、すみません、閉めてくださいということになる。

出羽 本当に居着いたとなったら、本格的に捕獲するか、撃ちとるかということだって出てくる。

山本 確かにここは観光地でもあるし花を見たい人もいる。ただもう一方でヒグマも森林の一要素です。人が見たいというためにヒグマの命を奪うことがいいのかどうか、ヒグマの専門家ではなくて一般市民としてみなさんもいろんな考え方をお持ちだろうし、行政もそこは必死で考えるだろうと思う。私はそれを簡単に想像できる。つまり（クマを）獲ってでも（花を）見たいという人もいる。花を見るごときでなんでクマの命を奪うんだという人もいる。絶対議論が起きる。それはそれで単に開けるた

めという前提ではなく、そういう議論も必要かなと思う。

舟橋 私自身もキトウシ山のような場所ならほったらかしておけばいいと思っている。殺せとか、ワナをかけて獲れとは言わない。

山本 ワナは効果が無い。

舟橋 効果が無いと言っても、居着いてしまったら何かやるしかない。

澤田 猟友会の人に言わせたら突哨山は鉄砲は撃てませんと言う。許可が出ない。鉄砲を持っていても空砲を撃つしかないそうだ。

山本 許可は出ます。実際出ています。出てるが、狙った先に斜面がなかったら撃ってはいけない。突哨山は撃てる場所がない。ライフルは3000m 飛んでしまうので、例えば突哨山の尾根筋で撃ったら近二小まで飛んでいく。発砲に関しては高速道路も同じ条件で土手盛りでは撃てない。

出羽 それも難しい。捕獲も難しい。

山本 谷渡りのようなところで後ろに斜面がある状況なら撃てるかもしれない。もちろん許可は出ており、先日の合同調査でもハンターは銃を背負って実弾をポケットに入れて歩いてますが、撃てる状況になるとは思っていない。

出羽 だいたい意見も出たと思いますので日程を決めましょう。もりねっとの都合を優先して決めたほうが良いと思う。

山本 一つ飛ばしていました。遊歩道の状況を口頭で説明します。びびの路へ行くところなど、笹だけというところは前を歩いている人間が笹藪の中に埋もれるような、後ろから見ているとヘルメットと肩しか見えないような、そんな状態もあります。木もれびの路の尾根筋へ行く途中などは、パッと見全部笹に覆われて笹をかき分けて行くような状態なので、ああいうところは一度今のうちに笹を刈って、なおかつ刈った笹を手作業で横へ動かしてやらないと。

出羽 現地検討会のコースはどのように考えているか。

山本 時間にもよるが、例えば仮に突哨山口から入って、カタクリ広場へそのまま出る。あるいは扇の沢までまわって歩く。扇の沢まで行くのであればびびの路も覗ける。

出羽 その辺は検討してもらおうとして、日にちを決めましょう。

出羽 9月25日、9時から突哨山口駐車場集合で。

出羽 コースは突哨山口から入って扇の沢を基本的には回ることにして、状況によってはピップ側も見る。

出羽 後日案内を送付してください。

山本 観察路の状況については資料を見てください。2011年、7年前に間伐をして、今年の春二度目の間伐をしました。7年前は全く手入れされ



ていない状態だったので均等に30%程抜きました。ちょっと力及ばず25%ぐらいの本数の均等間伐。それでもやはり2番目の写真のようにちょっと出てきて、去年の夏には、かなり背丈ぐらいの木が生えて。これいい塩梅に笹が全くない。と言うのはトドマツの下というのは真っ暗なので、最大の敵である笹が撲滅されている。間伐遅れというのは意外にチャンスだったと思う。この春に、少し今回はパーセンテージが25%ほどなんですけど、笹が来てないということがわかったので思い切って穴を開ける、均等にしないで、光がドーンと入る場所をまだらに作ってみました。（資料を）ひっくり返すと大きい写真があるが、このように光がドーンと入る場所を作ると、かなりいろんな木がワサワサと生えてきています。しかも、木本草本、木本も結構いいペースで上がってきています。ただ冬に作業をしたので、観察路としてこのレールみたいな道を想定したところの上に木が乗っかかりして、ちょっとコースを変えなきゃいけないところもあるので、そこはご容赦ください。

出羽 現地検討会の時にここは通るか。

山本 通ります。データも5m角で。5mで約八十何本ですからヘクタールあたりで3万2千本ぐらいの稚樹が生えているということです。普通、人工造林する時には2千本から3千本なので、その10倍以上ワサワサと稚樹が出てきた。この中でこの先、ナラが一番多いが、どんな木がどういう風に育っていくかというのはまた今後の課題でもあり楽しみでもある。広葉樹ばかりカウントしたが、トドマツだけあまりにも多いので1m角で測ったら、32万本相当というとんでもない密度で生えている。トドマツも当然あるし、これから針広混交林の競合が始まる。どれも人が植えたものではなくて天然の種が出てきて自然の競争の中で混交林として生えてきている。そんなのを見ていただけだと思う。

## ②10周年記念イベントについて

第1回協議会においても議案としましたが、突哨山の周囲を一周歩くイベントの提案について。

出羽 一周を歩くと相当な距離があります。10キロぐらいある。

考えたんですが、この機会に一般市民を含めてクマに対するシンポジウムもいいのではないかと。札幌の例もある。そういう企画も突哨山運営協議会でやってもいいのではないかと。さっきのだけでも相当参考になる。あまり時間はないが。雪が降ってからでもいいとは思いますが。再検討ということでもいいか。次回の協議会は12月なので、それまでに役員会など

で決めることになる。  
とりあえず置いておいて次の議題に行きます。

### ③突哨山活動記録誌について

現在までの進捗状況と今後の進め方  
(別紙参照)

出羽 歴代運営協議会の役員及び運営委員一覧はむしろ市にお願いしたほうがいい。記録はありますか。

公園みどり課 矢萩 あるはずです。

出羽 これだけ市にお願いする。  
また締め切りを作らなければならない。10月末にする。  
原稿が集まった段階で再度検討する。

出羽 10周年記念イベントと活動記録誌についてご意見ありますか。  
なければ役員会で検討します。

中村 ここに書かれていないが、40号線沿いの突哨山駐車場に我々指定管理者がトイレを設置している。毎月お金を払っている。現在突哨山は入山禁止になっているので、駐車場を利用しているトラックなどの運転手さん達が使っている状態。目的とは違う使われ方になっているので、例年より1、2ヶ月早いですが、差し支えなければ撤去ということでもいいか。

出羽 仕方がない。一月いくらかかっているのか。

中村 16千円ぐらい。

山本 冬は撤去している。

中村 では撤去するという事で進めます。

## 3. 連絡事項

---

- 9月26日 近二小3、4年突哨山活動(樹木から木材、木製品について考える)
- 10月2日 近二小5、6年突哨山活動(間伐体験 東鷹栖14線)
- 10月3日 近二小1、2年突哨山活動(葉っぱから考える樹木のこと)
- 11月初旬 芋煮会(突哨山と身近な自然を考える会、昨年は11月5日実施)

12月初旬 第3回協議会 忘年会  
出羽 次回協議会の日程を決めます。12月5日(水)にします。